

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～中間発表会に向けた発表スライドの完成と発表原稿の準備～

2. 本時の主題の概要および設定理由

前時までにおいて、生徒は各自が設定した学問系統・分野の「専門的課題研究」において、研究背景の整理、リサーチクエスションの導出、およびそれに対する仮説と検証方法の検討を重ね、発表用スライドの作成に取り組んできた。

本時は、学年末に予定されている「専門的課題研究中間発表会」に向けた極めて重要な準備の局面である。今年度の課題研究の集大成となる中間発表会は、次年度に向けた研究の質をさらに高めるための自己点検・相互評価の機会として位置づけられている。本時の主たる活動は、発表用スライドの完成と、次回実施する発表リハーサルに向けた発表原稿の作成である。スライド作成においては、単に内容を網羅するだけでなく、引用文献の正しい表記ルール(『課題研究メソッド』準拠)の遵守や、チェックリストを用いた厳格な自己確認が求められる。また、思考のパートナーとして位置づけた「支援Gem(生成AI)」を活用した自己点検の手法も導入し、主体的にスライドをブラッシュアップする態度を養う。さらに、前期の情報科の授業におけるプレゼンテーション実習の既習事項(話し方、態度、視線など)を想起させ、発表スキルそのものの向上を意識した原稿準備を促す。

これらを通じて、自らの研究プロセスを論理的かつ客観的に振り返り、他者へ効果的に伝えるための基盤を形成することを目指して本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **スライドの論理的構築と自己点検:** 中間発表会に向け、構成(テーマ、背景、RQ、仮説・検証方法)の論理性をチェックリストおよび支援Gemを用いて主体的に点検し、引用文献の書式(『課題研究メソッド』準拠)に従って正しくスライドを完成させることができる。
- 2) **プレゼンテーションスキルの意識化と原稿準備:** 前期の情報科の授業の学びを想起し、聞き手にとって明瞭な話し方や適切な発表態度(視線、振る舞い)を意識した発表原稿を準備し、次回のリハーサルの見通しを立てることができる。
- 3) **計画的な時間管理と振り返り:** 『探究ノート』を用いて本時の活動目標を設定し、50分間の進捗を適切に自己管理するとともに、次回に向けた準備の課題を明確に整理できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第26回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』
『専門的課題研究中間発表スライド』(共有ドライブ内のGoogleスライド原本)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』

- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)
『SS I 分野&担当教員一覧』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』、『課題研究発表ルーブリック』、『スライドチェックリスト』
- 学習支援AI: 『発表スライド作成支援Gem』(Gemini上で動作するスライド評価用カスタムAI)

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 ● 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 ● 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第26回授業スライド(PDF版)』を表示する。	● ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 ● 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
5分	(2) 中間発表会の概要説明とプレゼンテーション技術の解説 ● 2月末に実施される「専門的課題研究中間発表会」の要項(発表時間5分、質疑応答なし等)やタイムテーブルについて説明を聞く。 ● 『課題研究メソッド』p.176-177を参照しながら、引用文献・参考文献の厳格な記述形式について確認する。 ● スライドチェックリストおよび思考ツールとしての「支援Gem」を用いた自己点検方法とその心構えを理解する。 ● 前期の情報科の授業で学習したプレゼンテーションにおけるリハーサルの手順、話し方のポイント、振る舞いや態度を想起し、今回の発表での重点目標を意識する。	● 中間発表会が今年度の課題研究の集大成(前期評価への算入を含む)であることを伝え、緊張感を持たせる。 ● 引用文献の表記は書誌情報ごとに形式を統一する必要があるため、必ず『課題研究メソッド』を参照するよう徹底を促す。 ● 「支援Gem」を利用する際は、AIの提案をそのまま受け入れるのではなく、最終的な判断は自分たちで行う主体的なブラッシュアップの姿勢(人間の役割)について指導する。 ● 話し方や態度などのプレゼンテーション技術は、単にスライドを読むだけではなく「聴衆に語りかける」ことを最終目標とすることを意識させる。
41分	(3) チーム(個別)課題探究ワークの実践 ● 『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記述する。 ● 各チームの進捗に応じて、発表用スライド(Googleスライド)の作成および内容の推敲を進める。 ● 『スライドチェックリスト』や『発表スライド作成支援Gem』を能動的に活用し、スライドの論理構成や体裁を客観的に自己判定・修正する。 ● 巡視する指導教員に対し、自分たちの研究計画やスライド作成の進捗を説明し、専門的な個別指導やアドバイスを求める。	● 担当教員は各チームを巡視し、進捗状況をリアルタイムで把握・支援する。 ● チームごとに個別面談等を行い、研究計画の概要を聞きながら、専門的・論理的な視点から個別に具体的な指導を行う。 ● 進捗が遅れているチームに対しては、役割分担(スライド修正と原稿作成の同時並行など)を促し、時間内の完成を支援する。 ● 『スライドチェックリスト』の項目を丁寧に満たしているかを点検するよう促す。 ● 引用文献が正しく記述されているか、特に注意深く確認・指導する。
2分	(4) 本時の振り返りと今後の見通し ● 本時の活動内容を振り返り、個人端末から『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 ● 次回授業で行う「発表リハーサル」の進め方について理解する。	● 『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 ● 次回の授業は実際に「発表リハーサル」を行うため、授業開始時点でスライドと発表原稿が完成していることが大前提であることを強調する。 ● 授業内のリハーサルが本番前に練習できる唯一の時間となるため、有意義に活用できるよう準備を強く促す。